



第4回 MPS 参加者ネットワーク協議会
MPS 総裁デクルート氏講演－議事録
2008年5月20日

本日はお招きいただきまして、どうもありがとうございました。私はいくつもの大切なメッセージを皆さんにお伝えする為に来日しました。そのメッセージが皆さんに伝わることを願っています。

今回のプレゼンテーションは大きく分けて3つのテーマがあります。1つ目は認証、2つ目はMPSの発展、最後に持続可能性についてです。

その① 認証

これからの社会では認証が大きな役割を果たすと思います。

取引が自由になり、インターネットの発展と共に、認証の中でも、国際的な認証が必要となっていきます。スーパーマーケットやチェーンストアとビジネスをする上で、認証が要求の一つになってくるとも考えられます。苦情に関する対応も追跡しやすくなります。たとえば、イケアでは、苦情に対して24時間以内に答えるという方針があります。常に認証に基づいたデータやマニュアルがあるからこそ、いつ、誰が、何を、どれだけ使ったか等の情報が管理されています。そのような対応は、会社のブランドを守るという事につながってゆくと思います。さらに、今後、花き業界は大きな注文にも対応できるように規模を拡大してゆく事が求められます。大きな注文にも認証のような統一した基準があることで対応することができるのではないのでしょうか？認証によって新たな市場を開拓できる可能性があります。

又、農業やエネルギーを使用する花き産業は環境に敏感な NGO 団体の標的になることも有り得ます。そのような時に、自分を守るという意味で認証が大切になってきます。オランダで MPS が始まったきっかけの一つが、今から15年ほど前に環境保護 NGO から攻撃を受けたことです。その時に生産者が集まりどうしたらよいか話し合いをしました。そこから MPS が生まれました。認証を取るには費用がかかりますが、利益を保証しているわけではないので、認証をとる意味はどこにあるのか？とお思いになるかもしれません。確かに利益の保証はしていませんが、一度、評判というものが落ちると元に戻すには大変な費用がかかります。そのように考えた時に認証を取ることを選ぶかはあなた自身の選択です。

政府は多くの場合、認証の設定に消極的です。それでも、もし花き産業関係者が自分たちで規則や認証を作らなければ、いずれは、政府のルールに従わなくてはなりません。私が強く言いたいのは、**自分たちの産業は自分たちで創造してゆく**ということです。その為には、皆さんが、一体となって早い対応をする事が求められます。

MPS の認証は花き産業の全てをカバーしています。花き産業でもっとも重要な要素は、利益、人、地球の3つです。MPS-Q, ISO, Florimark-GTP は、利益に関係のある認証です。MPS-SQ は人、MPS-ABC は地球に関係があります。MPS-GPA や MPS-TraceGert は人と地球の両方に関係のある認証です。

ビジネスを行うということについて考えてみます。少し前までは「Trust me(私を信用してください)」という事がビジネスをする上で大切でした。しかし、時代と共に、「Tell me(私に教えてください)」という考え方に移行してゆきました。つまり、「Tell me what is the situation? (今、どのような状況なのか教えてください)」とより具

体的になってきました。そして、現在は「Show me (私に見せてください)」とさらに具体的にになりました。「Show me」といった時に、何をさせるのか？キーワードとなってくるのが、検証、トレーサビリティ、認証、共有のデータベースです。

その② MPS の発展

今後のビジョンを考える時に花き業界が辿らなければならないルートは2つあります。1つは、「責任ある集合体」、もう1つは、「国際市場の分析」です。

「責任ある集合体」において、この花き産業をよい産業、よいイメージにしてゆく為には、個々が責任をもって取り組まなければなりません。その取り組みの一つが MPS です。オランダの 1000 生産者から始まった MPS に今では 7 割のオランダの生産者が参加しています。MPS の大切さが伝わったからこそ、広がっていったのだと思います。「自己責任」とは何なのか？を理解しないまましていると、将来、大きな問題にぶち当たると思われます。そして、「集合体」についてですが、花を売るといっても色々な花、色、大きさがが必要です。一人でその要求を達成することは難しいでしょう。しかし、皆で一体となれば、産業を伸ばす事ができるのです。隣は敵なのではなくて、協力できる相手なのです。「**個人が自分の行動に責任を持ち、さらに集まって協力する**」という事はとても大切な事だと思います。

「国際市場の分析」において、データというものはとても大切なものです。オランダでは MPS-ABC のデータは1つで4つの役割を果たしています。①MPS-ABC 認証の為 ②政府機関の為 ③地方自治体の為 ④国家統計の為です。MPS で蓄積したデータを使用すれば、関係当局や公共団体にとっては管理負担の軽減になります。生産者にとっては、データを分析して改善を行えば、コストを下げることができます。現に、過去 10 年間で 3000 人の生産者を見た時に、エネルギーの使用量は 30%減りました。しかも、生産は 30%増えています。つまり、一本につき 60%コストが下がっているのです。同じ事が農業にも言えるので、総体的にみるとその効果は大きなものです。このような結果は、単に MPS の力によるものとは思っていません。ただ、データをとる事によって、分析をし、自分の位置を知ることができます。そうすると、現状満足という事がなくなるはずで、「**データと分析**」そこから得られる効果は大きいと思います。

MPS は世界規模で発展をしています。今はまだ全てそろっている国はありませんが、MPS の最高峰と言われているのが、MPS-Florimark Production, MPS-Florimark Auction, MPS-Florimark Trade の3つです。各トップの企業がこの認証を取得することによって、分業化されていた一連の流れが結合することでしょう。

少し世界における MPS の現状をお話しますと、アジアにとって日本は注目すべき国です。日本がお手本となってゆくでしょう。南米ではブラジルに事務所を立ち上げ、南米全体を統括する予定です。ロシアでもイケアの要請で MPS は広がっています。さらにオランダの認証に興味を示していなかったアメリカでも来年くらいから MPS をスタートする予定です。アメリカは生産者が持続可能性の重要性に気がつき、関係当局ではなく生産者から MPS を始めたいという話が出てきました。ヨーロッパではフランスの大手スーパーの要求から MPS がスタートしました。さらに、ヨーロッパではフェア・トレード(FFP)が生産者に新しいマーケットを開きました。FFPというのは、いわゆるマックス・ハーベラーに代表されるフェア・トレードとの違いは、南半球に特化していないという点です。MPS-A と MPS-SQ を持っていれば、FFP として国際市場に商品を提供するこ

とができます。

ここで最近の話題について触れておきたいと思います。まず、審査会社 ECAS(エーカス)と合併したことで MPS のロゴ、オランダのウェブサイトが新しくなりました。データを入力するシステムアクトレスも新しくなりました。2008 年 8 月からは野菜と果物の MPS が始まります。MPS 残留農薬測定と指標、MPS 二酸化炭素測定と指標にも取り組んでいます。又、花束加工会社向けにも MPS の認証を作りました。ドイツでも MPS のプロジェクトが始まり、南アフリカとケニアで MPS-ECAS を設立。イギリスの認証会社 BOPP と協力関係を築く事になりました。

その他、進行中のプロジェクトとして、花の船舶輸送が増えている事を背景にボトリチスに関する研究、エディブルフラワーと花の残留農薬の研究なども行っています。

注意すべき問題として、森林伐採問題があります。MPS として何ができるのでしょうか？また、MPS でない花がブーケに混じっているにも関わらず、MPS として不正に売られている問題も挙げられます。そのような問題を防ぐ為にも花束加工会社向けの MPS 認証を作りました。二酸化炭素の排出とエネルギー使用も考える必要があります。中国やインドでは労働問題があります。最近では、水の欠乏問題に対して、バーチャル・ウォーターと言って商品がどれほど水を使用して作られたか換算する研究が進んでいます。

その③ サステナビリティ(持続可能性)

我々は後ろを振り返らずに未来をみて生きていくべきです。その未来の為には、持続可能性はとても大切です。日本の持続可能性に関するサイトを見つけました。時間がある時に、サイトをご確認ください。

http://www.japanfs.org/index_j.html

持続可能性には3つの要素があります。社会、環境、経済。MPS は環境からスタートしていますが、社会、利益というものも考え、認証のシステムを作りました。そういう意味で持続可能性を考えています。例を見ると、ユニバー、シエルのような大きな企業も声明に「持続可能性」という事を謳っています。

今後、考えられる重要な発展について述べたいと思います。原料や食料は欠乏します。実際、中国はアフリカの土地を買い、米を栽培しています。リサイクルがより重要になってくるでしょう。又、アメリカ元副大統領アル・ゴアの映画「不都合な真実」で伝えられたように気候変動が起こるでしょう。そして、我々は、情報社会から体験社会へと移行していきます。

もう少し、詳しくこの体験社会について説明したいと思います。我々の社会は、農業社会→工業社会→情報社会→体験社会へと移行してきています。企業も商品を買う時、単に商品を買っているのではなく、体験や感情を買っているのです。例えば、電気メーカーのフィリップスは電化製品を買っているのではなく、ライフスタイルを買っていると宣伝しています。トヨタは車を買っているのではなく、ある場所から他の場所に移動するという体験を買っているのです。銀行はローンや投資信託を買っているのではなく、私たちの未来を買っているのです。体験とは「市場を通して消費者が個人的にあなたの商品に関わること」を意味しているのです。私たちは新たな時代に入りました。

さらに持続可能性を考える時に、「伝統」というものはとても大切になってきます。伝統というのは今日まで続いているものです。伝統的な価値の中に、持続可能性のヒントが隠されているのではないのでしょうか？そして、商品にはストーリー性が必要です。例えば、花は単なる花ではなく、富士山のふもとの水がきれいな地域で昔から春の訪れを知らせてくれる花というストーリーです。又、持続可能であるためには全商品は地球にやさしく、商品に関する情報(品質など…)は商品に組み込まれている必要があります。持続可能性には「未来がある」と私は信じています。

本日はご清聴、どうもありがとうございました。